

令和7年度 大阪府立箕面支援学校 第3回「学校運営協議会」議事録

日 時	令和8年1月23日（金） 10：00～11：10（本校校長室にて）			
出席者	協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	山本 智子	皇學館大学 教育学部 准教授	平井 晋也	校長
	阿久根 賢一	学校法人園田学園 副理事長 社会福祉法人天森誠和会 理事長	稲野 早苗	教頭
	高田 浩行	社会福祉法人 川西市社会福 祉協議会事務局 局長	松田 里絵	教頭
	青島 薫	吹田市立こども発達支援セン ター わかたけ園 園長	切通 圭介	事務長
	千馬 外代美	本校後援会 会長	藤嶋 耕治	首席（小学部付）
	大辻 美幸	本校保護者（PTA会長）	宮脇 敦子	首席（中学部付）
			李 容司	首席 養護教諭
			長峰 祐介	小学部主事
			竹中 俊	中学部主事
			丹羽 はるか	高等部主事
			北村 直樹	首席（高等部付） 事務局長
おもな テーマ	「令和7年度 学校経営計画の評価について」 「令和8年度 学校経営計画（案）について」			
協議内容 の概略	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校長挨拶 2. 学校教育自己診断 結果まとめについて 3. 令和7年度 学校経営計画 評価（案）について 4. 令和8年度 学校経営計画（案）について 5. 実施要綱改訂について 6. 事務局より 7. 学校長より 			

<p>協議内容 質疑応答 ・ 提言等</p>	<p>【開会：平井校長より】</p> <p>本日は今年度3回目の学校運営協議会として、年度のまとめと振り返りを行い、来年度につなげるための意見をいただきたい。校内では寒さの影響で欠席は出ているが、感染症の大きな広がりはない。3学期に入り、各学部で卒業式に向けた最終的な取り組みが進んでいる。また、来週から作品展が始まる。よろしくお願いします。</p> <p>【学校教育自己診断結果について】</p> <p>(北村首席)</p> <p>本校では、学校教育自己診断を保護者・教職員を対象に実施した。実施期間は、保護者が11月24日～12月5日、教職員が11月21日～12月5日である。回答率は、保護者が前年度の81%から82%へ、教職員が97%から99%へと、それぞれ向上した。</p> <p>今年度は、設問内容の重複を避けるため、一部の質問文を整理・変更した。具体的には、個別の指導計画や医療的ケアに関する設問を簡潔な表現に改めている。</p> <p>保護者の自己診断では、90%以上の肯定的評価項目が昨年度より減少し、80%以上の項目は増加した。いじめ等に関する対応についての体制については「わからない」という回答が増えたため、今後はアンケート実施時に体制についても周知を行う予定である。教育支援計画やキャリア教育については、引き続き改善と情報発信が必要と考えられる。</p> <p>教職員の自己診断では、肯定的評価が全体的に高水準を維持しているものの、学校長のリーダーシップや授業力に関する項目でやや低下が見られた。今後は、研修の充実や教職員間での共有を通して改善を図る。</p> <p>一方、地域支援に関する評価は大きく向上しており、積極的な情報発信の成果が表れている。</p> <p>次年度に向けては、「障がい理解教育・授業力・専門性向上のための研修」、「新校務支援システムの定着」、ICT活用における課題検証」を重点的に取り組む予定である。</p> <p>(千馬委員)</p> <p>「ICT活用における課題検証」について詳しく教えてほしい。</p> <p>(北村首席)</p> <p>現在、授業ではiPadが活用されてることが多い。また、撮影ができる機会も多く、カメラ機能を使って、それをもとに授業作りをしたり、画像や動画の編集をしたりする場面も増えている。そのため、児童生徒にとっても、教員にとっても非常に身近で、使いやすく、活用しやすいものになってきている。</p> <p>その一方で、モラルやルールといった点が置き去りにになっている部分もあると感じている。また、新しい機能も増え、ルールの隙間が生まれ、各個人の判断に任されることもある。本校でも、その点を整理し、どのような課題があるのかを明確にする必要があると考えており、今年度中に課題を整理・提示できればと考えている。</p> <p>(山本委員長)</p> <p>具体的に言うとどのようなものがあるのか。</p> <p>(北村首席)</p> <p>例えば、教員が児童生徒の画像や動画を編集して、校内で鑑賞することがあり、その内容が教育上、適切なのか不適切なのか二分することがある。</p>
------------------------------------	--

(千馬委員)

保護者から同意書みたいなものをとっているのか。

(北村首席)

ホームページや研究紀要への掲載に関する同意書は取っているが、それ以外は特にはない。どちらかという、モラルの部分が課題と考えている。

(山本委員長)

ICTを導入して授業を行うということの意味を改めて考える必要があるのではないかと。ルールなどを決めていくことを必要と考える。

(阿久根副委員長)

最近の学校教育自己診断結果は安定感がある。日頃やってらっしゃることがアンケートも出てると思う。あとは情報がどこまで伝えられるかが、毎年のパーセンテージの僅差になるのかなと思う。

(大辻委員)

来年度から個別の教育支援計画が新システムになるとのことだが、詳しく教えてほしい。

(北村首席)

来年度から、大阪府内の学校で個別の教育支援計画と指導計画の様式が統一される。そのため、作成には「SATT 賢者」というソフトが使用され、これまでの本校での内容と異なる部分があるため、保護者には改めて白紙からご記入いただくことになる。内容は大きく変わらないが、今までの様式から追加の項目がある点をご理解いただきたい。

【令和7年度学校経営計画評価について】

(平井校長)

学校経営計画の評価について、数値が達成しているものについては「○」、そこまで達成していないものについては「△）」という評価にしている。全体としては、概ね評価はある程度「○」を付けることができているのではないかと考えている。

特に、医療的ケアに関することについては、日頃から取り組みを進めてきている。地域支援に関しましても、98.5%まで伸びている。その点はかなり評価できるのではないかと。

一方で、「△」の評価となっている部分については、個別支援計画に関する項目で、差が出ている。ただし、現時点では一定程度対応できていると考えている。

まだ、実施できていない項目や、発信回数（校長ブログなど）については、現段階では最終結果には至っていない。最終的には数値にて反映する。

(山本委員長)

各学部の実情を学校経営計画の評価と一緒に聞きたい。

(長峰小学部主事)

小学部は「ケース会議」の回数が増えているが、以前は児童の生活環境が非常に深刻で、関係者が集まって話し合うイメージを持っていたが、今は情報共有という意味合いで、福祉関係も含めて、みんなで共通認識を持つための会議として活用される印象がある。担任を中心に、保護者も交えて行う場合もあれば、保護者の方は同席せず、より深刻なケースであれば、管理職の先生方や我々も入って行うこともある。そうした会議が活用されてい

て、そういう意味では開かれた学校だという実感はあったかなと思う。

(竹中中学部主事)

医療的ケアについては肯定的な評価が得られており、中学部でも継続して対応している。今年度は緊急放送が多かったが、経験を重ねることで対応手順や優先事項を確認でき、現在は落ち着いて対応できる体制が整ってきている。

緊急放送については判断に迷う場面もあるが、「放送をかけて悪いことはない」という共通認識を持ち、人が集まることを重視している。人手が限られる中でも、緊急時は全体を止めて最優先で対応する体制づくりを進めてきた。

(山本委員長)

緊急放送をかけることに躊躇する先生もいるとのことだが、緊急放送と判断する際の基準はあるのか。

(竹中中学部主事)

個々で緊急放送と判断するマニュアルを作っている。放送をかけると、看護師や管理職、首席、部主事などが集まり、対応をする。

(李首席)

本校では、緊急放送と準緊急放送の2種類を設けている。緊急放送は、重大な緊急事態が発生した際に、速やかに多くの教職員が駆けつけることを目的としている。準緊急放送は、看護師に早急な対応を求める場合に使用しており、状況に応じた使い分けを行っている。

また、新転任教職員を対象に医療的ケアの実施体制について説明している。その中で、児童生徒の様子に少しでも不安を感じた場合には、判断に迷わず緊急放送を行うよう周知している。

本校は重度の児童生徒が多く、看護師が常時付き添う体制ではないため、日常の健康管理や初期判断を担当教員が行う場面が多い。このため、不安を感じる教員も少なくないが、「放送をかけて悪いことはない」「空振りでも構わない」という共通認識のもと、全教職員で対応する体制づくりを進めている。

(高田委員)

息子と同級生で、普段から事業所に通われていた方が、健康状態について悩みを抱えていた。日常的に体調を崩すことも多かった。昨年だが、その日も事業所で倒れ、結果的には腸が詰まってしまっていたことによる発作であった。普段の発作とは全く違う状態であることが、その時点ではわからなかったとのことだった。そのため、「いつもの反応だろう」という判断になってしまったのかもしれない。

今、お話にあったように、たとえ結果的に空振りであったとしても、最善を尽くすことの大切さを改めて感じた。

(丹羽高等部主事)

学校にはいじめ等に関する相談体制があるものの、SNS、特にLINEでのやり取りに関するトラブルが課題となっている。グループLINEでのやり取りや過剰なメッセージ送信によるトラブルが見られ、把握が難しいケースもあった。現在は個別対応やその都度の指

導を行っているが、今後は生徒全体を対象に、ルールやモラルについて系統的に指導する仕組みが必要である。

今年度の高等部3年生30名の進路状況について。能力開発校1名、自立訓練3名就労継続支援B型3名、生活介護22名、未定1名である。生活介護を選択する生徒が最も多く、例年と同様の傾向が見られる。

(千馬委員)

SNSでのトラブルについて。学校にスマートフォンや携帯電話を持参している生徒もいるのか。

(丹羽高等部主事)

自力通学の生徒もいるので、持参している生徒もいる。ただ、ルールとして学校内では使用しないこととしている。なので、トラブルがあるのは、自宅に帰ってからになる。

(山本委員長)

外部講師や警察などを招いた勉強会は、印象が強く分かりやすい可能性がある。10代の脳は本能的な部分が発達しており、理性で感情を抑えるのが難しいため、失敗を通じて学ぶ経験は重要。ただし、事件や大きな問題につながる行動は避けるよう、最低限その危険性について学ぶことは必要。教育的対応と家庭教育のバランスも重要で、介入しすぎると親に知られたくないことも出てくるため難しい。命に関わらない問題であれば、すぐに介入せず様子を見る場合もあるのかもしれない。

(山本委員長)

令和7年度学校経営計画評価は学校運営協議会としては承認したものとする。

【令和8年度学校経営計画案について】

(平井校長)

大きな変更はなし。ただ、中期的目標の5番として国からの施策として「労働安全衛生管理体制の充実」を加えている。大阪府としては勤務時間が720時間を超えるのを無くすことを第一に考えている。本校ではストレスチェックも含めて数値を下げていくような目標としている。

その他、学校教育自己診断結果を受けて下がっている部分に関して、改善をしていけたらと思っている。

(山本委員長)

学校経営計画を遂行していくには予算が必要だと思うが、予算的なことを教えてもらいたい。

(切通事務長)

予算は限られた配当の中で適切に執行されている。備品費は最初から配当されているわけではないので必要な予算についてはその都度、理由をつけて教育委員会に要求しており、最近は承認されるケースが増えてきているように思える。

また、必要な物品や備品類については同窓会や豊泉家様より寄付物品としてご提供いただいている。その部分も含めて、必要な物品は確保できているが看護師が使用しているトランシーバーがもう少し増やせたらという希望もある。

(李首席)

まず、準緊急放送は看護師が対象の生徒のもとにすぐ行くための呼びかけ。緊急放送は全員に向けて「緊急です」と呼びかけ、管理職、看護師、首席、部主事などが一斉に対応するものである。日常的には看護師が見当たらない場合は保健室に連絡。保健室から看護師室に内線やトランシーバーで依頼をする。トランシーバーが最も効果的な理由としては、看護師全員に一斉発信できることで、すぐレスポンスがあり、無駄な動きが減る。携帯では1人に連絡をすることになり、その看護師の対応が難しいようであれば、準緊急を流すことになる。そうすると準緊急放送が多発する可能性があるため、効率的に対応するためにはトランシーバーが必要である。安価な機種を使用している学校もあるが、本校は校舎構造や災害対応を考慮し、性能の良い電波管理局にも届けている機種を導入している。

(宮脇首席)

スノーブレン活動は各方面から多くのご協力をいただき、とても充実していた。外部からも高く評価されており、来年度からは、ホームページへの掲載をして、良い取り組みを内部だけでなく外部にも発信していきたいと考えている。

(北村首席)

今年度まで教員が写真撮影・選別・印刷・配付までしていたが、作業量が多く負担が大きかったため、来年度からは一部の業務を委託し、保護者に直接購入・選択してもらう方式に変更する。これにより、教員の負担が大幅に軽減される見込みで、PTA 役員会でも了承を得ている。

(松田教頭)

授業力の向上が今後の課題となるが、私自身が教頭も初めてで転勤も初めてだったので慣れるのに精一杯で十分に各授業を見られなかった。来年度は、先生方の授業力や意欲をさらに高めるために、追加のサポートや取り組みが必要だと考えている。

(稲野教頭)

働き方改革について。単に仕事を減らすことではなく、今行っているものをいかに効率よく質を高めることが重要であり、その考え方を明確にしていく大切さを感じている。そこがまだ少し曖昧な部分があるので、改めて確認していく必要がある。

(松田教頭)

授業にも通じるものがある。

(山本委員長)

最近、大阪府だけでなく全国的に「教える基本」が抜けていることがある。例えば、楽器の扱いについて。最初に楽器を触れさせる時にどのようなことを注意して園児や児童生徒に伝えるのか。音を鳴らす前に何をしないといけないのか。それを伝えないケースが多い。

また、ICTの活用について。大人は「難しいからこれがあると便利」と考えるかもしれないが、子どもの育ちの観点からすると、ICTは必ずしも必要ではない。ICTに頼る前に、本物に触れさせて、五感で学ばせることが子どもの成長には重要で、基本を大切にすることが大事だと思う。でもICTを活用することで代替できることが、スタンダードに

なっているので、「学習のショートカット」をしている気はないが実際にはしているケースも多いような気がする。

学校教育自己診断結果が80%以上、90%以上という評価にプラスして今後は中身を見ていくことが必要と感じた。

(藤嶋首席)

今年度の自己診断の評価の中で、個人写真の扱い方について触れたが、生成AIについては、どの学校でも「学校としてどこまで使ってよいか」がまだはっきりしていない。先生方も、良いところは積極的に活用している。AIを使うと簡単に処理できるし、検索すれば何でも出てくる。今後さらに利用が広がっていくであろう。

問題なのは、写真や児童生徒・先生の画像をAIで加工して、遊び感覚で使うケースである。それを授業で使ったり、みんなの見えるところに張ったりすることがある。それが本当に良いのか。こうした利用の頻度は増えてきているため、便利な部分は活用しつつも、扱い方には注意が必要である。

(山本委員長)

令和8年度学校経営計画及び評価に関して学校運営協議会として承認したものとする。

【実施要綱改訂について】

(北村首席)

現在、「大阪府学校運営協議会の運営に関する要綱」をもとに、大阪府立箕面支援学校版の実施要項を作成していた。ここ数年、何度か「大阪府学校運営協議会の運営に関する要綱」は改定をされているが、現在の本校の実施要項がそれに対応していない部分があるので今後、「大阪府学校運営協議会の運営に関する要綱」を本校版に置き換えていく。

【閉会：平井校長より】

今年度、3回の学校運営協議会でたくさんのご助言をいただき、ありがとうございました。また、来年度もよろしく申し上げます。